

第15回『文化人・芸能人の多才な美術展』プロジェクトについて

「文化人・芸能人の多才な美術展」は、文化の世界で先導的役割を担っている文化人や芸能人の方々に、「広げよう文化の輪・芸術は世界を救う！」をテーマに、様々なアート作品を制作してもらい、これらを一堂に会し、世代を越え、ひとりでも多くの人びとにアートの素晴らしさを伝えようとするものです。お陰様で、この展覧会も今年、15周年を迎えました。これまで多くの方々に支えられながら、さまざまな時事問題をテーマに掲げ、チャリティイベントとしてこの展覧会を続けてまいりました。そして、この記念すべきテーマは「人間の尊厳」にいたしました。

現在、私たちを取り巻く社会は、世界的規模で広がる不況の波、民主化運動に伴う大規模な紛争、専制政治やテロがもたらす社会不安などが交錯し、これまでとは違い急速にその姿を変えつつあります。そして、徐々に広がる格差社会の中で「人権」や「人間の尊厳」に関するさまざまな問題も世界レベルで問われてきています。こうしたことを背景に、今回、私たちはこの展覧会を通して「人間の尊厳」について考えてみたいと思ったわけです。

「人間の尊厳」、この問題に真っ向から挑んだ人物がいました。南アフリカ共和国第8代大統領ネルソン・ホリシャシャ・マンデラ氏です。彼はアパルトヘイトの撤廃を目指し、強い心で人間の尊厳を訴え、非暴力でその獲得のために闘ってこられた偉大な革命家です。マンデラ氏こそ今回のテーマの象徴として最もふさわしい人物である。この展覧会には彼の存在が必要不可欠であるとの思いから、本展覧会への参加をお願いすることにしました。大変困難な状況の中、このお願いに対し、ネルソン・マンデラ財団が快く応じてくださり、今回、マンデラ氏自身が書いた彼の「理想」に関するメモやサイン、書物の展示が実現できました。彼のメッセージは、心の底から他者を尊重し、人間の尊厳を認め、国際社会の平和と発展に寄与すべきことを私たちに強く訴えています。

今回の展覧会には、この他、人気ダンス&ボーカルユニット EXILE の TAKAHIRO 氏が今年のテーマである「人間の尊厳」をデジタルアートで表現してくれました。また、政界からは、内閣総理大臣安倍晋三氏をはじめ自民党幹事長石破茂氏や元内閣総理大臣福田康夫氏・麻生太郎氏・鳩山由紀夫氏、前自民党総裁谷垣禎一氏など21名が参加してくださいました。これに著名な文化人・芸能人が加わり、今年は作家100名、175点の過去最大級の作品が出品されます。

本展覧会には昨年、ブータン国王両陛下もご参加くださり、愛のこもったメッセージとともに彫刻絵画をご出品いただきました。これほど多才な参加者によるエンターテインメントアートは世界的にも類を見ないものだと思います。お陰様で、これまでの14年間の累計動員数も257万人になりました。また、15周年を迎えたこの展覧会に歴史に残る偉大な方の参加が叶ったことにも、この展覧会の限り無き可能性を感じております。今後とも本展覧会が自由で平等な芸術創造の祭典であることを祈ってやみません。

最後に、本展覧会の開催に際し、ご出品者はもとより、マンデラ氏の本展覧会への参加・交渉にあたり、多大なるご協力を賜りましたネルソン・マンデラ財団理事長 Sello Hatang 氏、同財団メモリーセンター所長の Verne Harris 氏、同財団マネージャーの Heather Henriques 氏、南アフリカなど世界の紛争地を取材しているフォトグラファーの高橋邦典氏、山脇愛理氏、そして、さまざまなご協力を賜りました関係機関ならびに関係者の方々に対しまして、心より感謝申し上げます。そして、この展覧会が南アフリカ共和国と日本国とのよき文化交流の場となれば望外の幸せであります。

2013年5月吉日

特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会 理事長

「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会

事務局長・アートプロデューサー

松岡久美子

特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会（理事長・松岡久美子）と「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会（企画：ラリス株式会社）は、国賓、芸能人、スポーツ選手、弁護士、写真家、画家、国会議員、漫画家などの美術作品を紹介する第 15 回『文化人・芸能人の多才な美術展』を開催します。

「文化人・芸能人の多才な美術展」は、全国的美術館、博物館、国立文化施設、商業施設、百貨店などを会場とし、「上げよう文化の輪・芸術は世界を救う！」をスローガンとして、文化の世界で先導的役割を担っている文化人や芸能人などの方々に様々なアート作品を制作してもらい、これら作品を一堂に公開することで、世代を越え、ひとりでも多くの人々にアートの素晴らしさを伝えようとするものです。

平成 11 年から福祉活動支援チャリティーとして開催してきた本美術展は、平成 18 年から文化財保護活動支援のためのチャリティーとして実施。一昨年は東日本地域が未曾有の災害に見舞われたこともあり、昨年「東日本大震災救済応援特別チャリティー企画」をテーマに開催。

今年 15 年目を迎える本美術展では、未だこの震災に伴う多くの苦しみと闘う人々と地域の復興支援を願うと共に、震災で傷つき、壊れた貴重な文化財の修復を行う文化庁の「文化財レスキュープロジェクト」を支援する「東日本大震災復興支援文化財レスキュー救済活動チャリティー企画」のテーマを掲げると同時に、私たちを取り巻く様々な社会環境にも目を向け、中でも格差社会に代表される人権や人間の尊厳にもスポットを当てていきます。出品作家は、南アフリカ共和国第 8 代大統領のネルソン・ホシシヤシャ・マンデラ氏をはじめ、内閣総理大臣である安倍晋三氏、現職警視總監の西村泰彦氏、現在の音楽業界をリードする TAKAHIRO 氏（EXILE）、平成の注目子役である鈴木福くんのほか、AKB48 の前田敦子さん似のモノマネで注目を集めるキンタロー。氏。、コロッケ氏など、総勢にして 100 名もの作家が参加するとともに、本美術展では過去最大の 175 点の作品が出品されています。

特に今回は、当美術展のテーマにも関わりの深い「人間の尊厳」について、ネルソン・マンデラ財団の協力により、ネルソン・ホシシヤシャ・マンデラ氏自身が書いた本邦初公開となる直筆のサイン（オリジナル）をはじめ、「理想」に関するメモやサイン、書物などを発表することになりました。このネルソン・ホシシヤシャ・マンデラ氏の出品物にあるメッセージは、心の底から他者を尊重し、人間の尊厳を認め、国際社会の平和と発展に寄与すべきことを私たちに強く訴えかけています。



また、EXILEのTAKAHIRO氏の作品は、「尊厳」「憧」「望」をテーマとし、書と自身が撮影した写真を融合させたデジタルアートで、今回の美術展のために製作された本邦初公開の作品で必見です。

更には、初めて絵画にチャレンジしたキンタロー。氏が平和をテーマに描いた油彩「世界はひとつ」や、コロッケ氏の和紙に力強く表現した大作の書「不動明王」、鈴木福くんが桜の木を子供らしい豊かな色彩で表現したちぎり絵「春に笑うと、桜も笑う」が出品されるなど、数多くの著名人の方々によって手がけられた多様な作品を一挙に公開します。

そして、政界からも、内閣総理大臣の安倍晋三氏をはじめ、自民党幹事長の石破茂氏や元内閣総理大臣福田康夫氏、麻生太郎氏、鳩山友紀夫氏、前自民党総裁谷垣禎一氏など、21名の方々に参加し、書や絵画などの作品が出品されます。

なお、本美術展の会場は、霞が関ビルディングプラザホール、パレスホテル東京のほか、東北・秋田の秋田アトリオン（美術展示ホール）、福岡の福岡アジア美術館などで開催することが決定されており、順次、全国の美術館、博物館、国公立文化施設、商業施設、百貨店などを巡回していく考えです。



感謝状



平成 25 年 3 月 25 日文化庁長官より感謝状をいただきました。この感謝状は、ご出展作家の皆様、開催会場の皆様、ご後援、特別協力、展覧会をご鑑賞いただいた熱いファンのご支援と応援のおかげです。その皆様ひとりひとりの為の感謝状です。心より深くお礼を申し上げます。

特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会 理事長

「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会

事務局長・アートプロデューサー

松岡 久美子

第15回『新・芸能人の多才な美術展』開催概要

15年目を迎えた『文化人・芸能人の多才な美術展』は、パレスホテル東京（東京都千代田区丸の内）で開催後、秋田、福岡などで実施。美術館、博物館、国公立文化施設、百貨店を会場として、全国を1年間で巡回していきます。また、今年の『文化人・芸能人の多才な美術展』は、「東日本大震災復興支援文化財レスキュー救済活動チャリティー企画」となるため、パレスホテル東京での開催以降、チャリティーグッズの販売やチャリティー金箱を各会場に設置することで、その収益や投入寄金全額を、文化庁が進める「文化庁レスキュー事業」、公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団に寄付します。この度の震災の復興を願うとともに、『文化人・芸能人の多才な美術展』の考え方や活について、広く一般の方々に文化の輪を通して広げていけることを願っています。

タイトル	東日本大震災復興支援文化財レスキュー救済活動チャリティー企画 平成25年度15周年特別記念展「文化人・芸能人の多才な美術展」 ～広げよう文化の輪・芸術は世界を救う！～
主催	特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」 (Japan Association of International Cultural Heritage) 「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会
後援	文化庁 公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団 公益財団法人 文化財建造物保存技術協会 各地域の放送局（NHK、民放）、新聞社など
特別協力	Nelson Mandela Foundation<南アフリカ共和国>
協力	財団法人 仏教伝道協会／株式会社アルテカ／黒沢建設株式会社／ 新光精工株式会社
会場	各地の美術館、博物館、国公立文化施設、百貨店美術館 等
事務局	〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-3-26 元赤坂 MI ビル 5F
企画制作	ラリス株式会社 代表取締役社長・アートプロデューサー 松岡久美子 TEL. 03-5771-6555 FAX. 03-5771-8833 URL : www.laris.co.jp
<東京会場>	
会場	霞が関ビルディング プラザホール（東京都千代田区霞が関 3-2-5） ※地下鉄銀座線「虎ノ門」駅 11番出口から徒歩2分 地下鉄千代田線「霞が関」駅 A13番出口から徒歩6分 地下鉄丸ノ内線「霞が関」駅 A13番出口から徒歩9分 地下鉄日比谷線「霞が関」駅 A13番出口から徒歩7分 地下鉄有楽町線「桜田門」駅 2番出口から徒歩9分 地下鉄南北線「溜池山王」駅 8番出口から徒歩9分
日程	5月19日（日）～5月24日（金）／11:00～20:00 （入館は19時30分まで） ※最終日は15時閉場
入場料	入場無料

<東京会場>	
会 場	パレスホテル東京 4F 宴会場「山吹」(東京都千代田区丸の内 1-1-1) ※JR「東京駅」丸の内北口より徒歩 8 分。 地下鉄「大手町駅」C13b 出口より地下通路直結
日 程	8 月 7 日 (水) ~8 月 16 日 (金) /11:00~20:00 (ご入場は閉場の 30 分前まで) ※最終日は 17 時閉場
入 場 料	一般 1,000 円 (小学生以下無料) ※会場中、会場受付にて入場券を発売
ゲ ス ト	8 月 7 日 /ネルソン・マンデラ財団、ネルソン・マンデラ・メモリー・センターの最高責任者セロ・ハタング氏 (別紙ご参照) のほか、出展作家の方々も多く参加されます。 11:00 テープカット ※ご取材は、事前にお申し込みが必要となります。
・セロ・ハタング氏 MR SELLO HATANG プロフィール	
	セロ・ハタングはネルソン・マンデラ財団、ネルソン・マンデラ・メモリー・センターの最高責任者である。以前同氏は南アフリカ人権委員会の情報コミュニケーション部のトップとスポークスマンを勤めていた。1994 年以降のナショナル・アーカイブスの改変に参加し、同時に真実和解委員会へ記録等資料を提供サポートし、ヴィットヴァータースランド大学の南アフリカ歴史アーカイブスの元理事長でもある。現在でも南アフリカ歴史アーカイブスとオープン・デモクラシー・アドバイス・センターの理事会のメンバーも勤める。南アフリカ憲法向上協議会の創立メンバーでもあり、現在同義会のアドバイザーも勤める。マンデラ氏の本「私との対話」の編集委員会のメンバーでもあり、語録「Nelson Mandela By Himself: The Authorised Quotations Book」の共同編集者でもある。
<秋田会場>	
会 場	秋田アトリオン 美術展示ホール (秋田市中通 2-3-8) ※秋田駅西口より徒歩 5 分
日 程	5 月 29 日 (水) ~6 月 20 日 (木) /10:00~17:00 (入場は 16 時 30 分まで) ※休館日なし
入 場 料	一般・大学生 1,000 円 (800 円) /中・高 500 円 (400 円) /小学生以下無料 ※ () は、前売りとは 15 名以上の団体
<福岡会場>	
会 場	福岡アジア美術館 企画ギャラリー (A, B, C) (7F 全室) (福岡市博多区下川端町 3-1 リバレインセンタービル) 7・8F ※中洲川端駅下車、6 番出口より徒歩すぐ
日 程	9 月 12 日 (木) ~9 月 17 日 (火) /10:00~20:00 (※入場は 19:30 分まで) ※最終日は 18 時まで (※入場は 17:30 分まで)
入 場 料	一般 800 円 (税込・小学生以下無料)
※上記以外の開催地につきましては、詳細が決まり次第、ご案内致します。	

併せて 2013 年度開催会場の募集も行っております。

可能な限り、日程調整等をさせていただきたいと存じますので、詳しくは、事務局（ラリス株式会社／電話 03-5771-6555）までお問い合わせ下さい。

主催	<p>・ 特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会（略称：JAICH）</p> <p>15 年目を迎えた『文化人・芸能人の多才な美術展』は、昨年から「文化人・芸能人の多才な美術展」実行委員会（※委員の詳細は P8 に記載）と特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会の共同主催により、開催することになりました。</p> <p>特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会（JAICH）は、2011 年 3 月、特定非営利活動法人としての設立が内閣府に承認された団体です。</p> <p>日本には豊かな自然の中で、長い年月をかけてはぐくまれた文化遺産が数多くあります。これらは私たちの心の糧になり、歴史や文化を理解するためには欠かせないもので、新しい文化の創造にも大きな役割を果たしています。特定非営利活動法人 日本国際文化遺産協会は、これらの自然と遺産を護り、育み、次世代に伝えていくために組織されました。</p>
----	---

後援	<p>・ 公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団</p> <p>文化財保護・芸術研究助成財団は、文化財の保存及び活用に関する事業の助成、芸術文化の発展に係る研究活動に対する助成及び世界の文化財の保護に関する国際的な協力・交流等を促進することにより、文化財の保護と芸術文化の充実向上を図り、日本の文化の発展並びに国際相互理解の促進に寄与することを目的とする法人として 2010 年 3 月に内閣府より新たに公益財団法人として認定を受けました。同財団は、これまでもシルクロード周辺を主とした地域の文化遺産に対する人的・技術的支援や資金援助を行ってきました。故・平山郁夫前理事長が提唱していた「文化財赤十字構想」の精神にのっとり、今後も文化を通しての社会貢献、国際貢献に尽くしていきます。</p> <p>・ 公益財団法人 全国文化財保存技術連合会</p> <p>日本における文化財建造物の保存修理は、明治 30 年の古社寺保存法施行以来、文化財保護事業における重要な施策のひとつとして、今日まで永年にわたり実施されてきました。これらの国民的文化遺産を守り伝えることに、確かな修理によって貢献することが、同連合会の大切な役割となっています。</p>
----	--

特別協力	<p>・ Nelson Mandela Foundation<南アフリカ共和国></p> <p>ネルソン・ホリシャシャ・マンデラ南アフリカ共和国第 8 代大統領によって設立された。ネルソン・マンデラ財団は、南アフリカ史上初の全人種参加選挙で大統領となったネルソン・ホシシャシャ・マンデラ氏の引退後に、彼のビジョンと価値観を未来へと引き継ぐために設立。戦略的ネットワークとパートナーシップによって、財団は、南アフリカのリソース・知識および技術を管理し、新たな可能性を提示する。</p>
------	--

<p>文化人・芸能人の多才な美術展の実績</p>	<p>「芸能人の多才な美術展（旧タイトル）」は、平成 11 年（1999 年）から開始し、昨年までの 14 年間で、延べ 257 万人以上の観客を動員している美術展です。第 1 回目は、福祉を目的としたチャリティー企画として開催。参加作家 17 名からスタートしました。その後、文化財保護支援のチャリティー企画として、「広げよう文化の輪・芸術は世界を救う！」をテーマに、美術展としては異例の憲政記念館を会場にするなど、芸能人や政治家などの才能ある作家の協力をいただきながら、平成 18 年（2006 年）から『文化人・芸能人の多才な美術展』と美術展のタイトルも改め展開しています。</p> <p>多くのジャンルの方々の参加により、今年は参加作家が 100 名にのぼり、国内最大規模のエンターテイメントアート展として、15 年目を迎えることになりました。</p>
<p>「文化人・芸能人の多才な美術展」 2013 年度（第 15 回）出展作家</p>	<p>1. 文化人・芸能人・特別出展(芸能人 57 名、文化人・特別出展 25 名)</p> <p><特別国賓出展> ネルソン・ホリシャシヤ・マンデラ Nelson Rolihlahla Mandela 南アフリカ共和国第 8 代大統領</p> <p><特別協力出展> 瀬戸内寂聴（寂庵） 高田良信（法隆寺） 豊原大成（西本願寺） 福山諦法（永平寺） 不二川公勝（西本願寺） 山田法胤（薬師寺）</p> <p><震災復興応援特別出展> 西村泰彦（警視総監）</p> <p><特別出展> 松井冬子（日本画家） 横尾美美（画家）</p> <p><特別記念出展> 美空ひばり</p> <p><特別賛同出展> 弘中惇一郎（弁護士）</p> <p><特別報道写真出展> 高橋邦典（フォトグラファー） 宮嶋茂樹（報道カメラマン） 渡部陽一（戦場カメラマン）</p>

<特別賛助出展>

さいとう・たかを（漫画家）

松本零士（漫画家）

矢口高雄（漫画家）

<特別企画出展>

升田 高寛（東急文化村 代表取締役社長）

芦屋小雁、菅原やすのり、安達祐実、パパイヤ鈴木、綾小路きみまろ

鈴木福、新井晴み、TAKAHIRO（EXILE）、和泉雅子、玉置孝匡

市田喜一（左時枝ご主人）、辻正司、内野雅弘（そのまんま美川）

堤大二郎、海老原有紀、キャシー中島、OH-SE（電撃チョモランマ隊）

中村繁之、大和田伸也、中邑真輔（プロレスラー）、奥山佳恵

中山律子、鬼塚勝也、蜷川みほ、風見章子、根本りつ子、

亀ひろし（ぴんから史郎）、橋爪淳、川合伸旺、

鳩山幸（鳩山友紀夫夫人）、川崎麻世、林与一、岸ユキ、原田直之

北野武、原田伸郎、キンタロー。、原田美紀（原田伸郎夫人）

国広富之、左時枝、コロッケ、藤あや子、小柳ルミ子、牧伸二

ザ・ニューズペーパー 渡部又兵衛、マイク眞木

ザ・ニューズペーパー 松下アキラ、増田登（八代亜紀ご主人）

ザ・ニューズペーパー 福本ヒデ、松村邦洋、清水圭、松本 幸四郎

水前寺清子、三浦リカ（堤大二郎夫人）、

ラトナ・サリ・デヴィ・スカルノ、八代亜紀

2. 衆議院芸術議員連盟、国会議員有志のメンバー <21名>

安倍 晋三（内閣総理大臣）、後藤田正純（衆議院議員）

深谷隆司（元通商産業大臣）、石破 茂（自由民主党 幹事長）

鈴木寛（参議院議員）、福田康夫（第91代内閣総理大臣）

逢沢一郎（衆議院議員）、谷垣禎一（前自由民主党総裁）（法務大臣）

松原 仁（衆議院議員）、秋葉賢也（衆議院議員）

中川雅治（参議院議員）、元宿 仁（自由民主党本部事務総長）

麻生太郎（第92代内閣総理大臣）、鳩山 邦夫（衆議院議員）

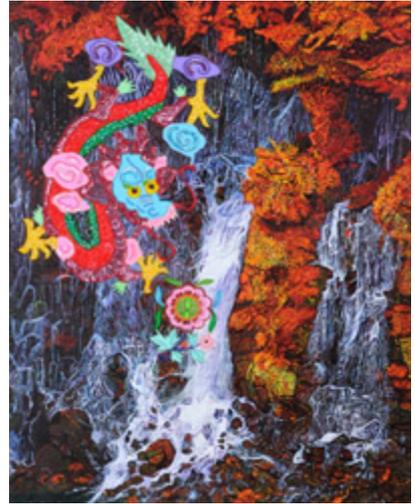
山谷えり子（参議院議員）、江田五月（参議院議員）

小泉俊明（前衆議院議員）、

鳩山友紀夫（由紀夫）（第93代内閣総理大臣）

山本明彦（元衆議院議員）、山本有二（衆議院議員）

平沢勝栄（衆議院議員）



第15回『文化人・芸能人の多才な美術展』実行委員会

東日本大震災復興支援文化財レスキュー救済活動チャリティー企画

「文化人・芸能人の多才な美術展」平成25年度実行委員会委員

特別顧問	青柳 正規 国立西洋美術館長、元東京大学副学長
実行委員長	元文化庁鑑査官、国立文化財機構東京文化財研究所長
委員（五十音順）	青木 繁夫：サイバー大学世界遺産学部教授 井上 洋一：東京国立博物館学芸企画部企画課長 高田 良信：法隆寺元管長 武野 和行：元NHK エグゼクティブプロデューサー・文化財保存修復学会会員 坪井 清足：財団法人 元興寺文化財研究所、考古学者 泊 懋：東映アニメーション株式会社元取締役相談役 沼田 智秀：財団法人仏教伝道協会会長 野口 昇：（社）日本ユネスコ協会連盟理事長 平井 昭司：東京都市大学教授 平尾 良光：別府大学文学部教授（文化財学科） さいとうたかを：劇作家 松本 零士：SF 漫画作家、大学教授 矢口 高雄：漫画家・随筆家
監 事	玉井 賢二 東京藝術大学社会連携センター特任教授
賛助（五十音順）	鳩山 友紀夫：第93代内閣総理大臣、逢沢 一郎：衆議院議員 平沢 勝栄：衆議院議員、秋葉 賢也：衆議院議員 深谷 隆司：元通商産業大臣、麻生 太郎：第92代内閣総理大臣 福田 康夫：第91代内閣総理大臣、江田 五月：参議院議員 松原 仁：衆議院議員、小泉 俊明：前衆議院議員 元宿 仁：自民党本部事務総長、後藤田 正純：衆議院議員 山谷 えり子：参議院議員、鈴木 寛：参議院議員 山本 明彦：元衆議院議員、谷垣 禎一：法務大臣 山本 有二：衆議院議員、中川 雅治：参議院議員
事務局長	松岡久美子 ラリス株式会社 代表取締役社長 アートプロデューサー

